

3/16 朝日

# 介護職員につのる 心の負担



マスクとフェースシールドを着けて利用者に接する伊藤道仁さん=SOMPOケア提供

## ■主な相談窓口

○全国老人福祉施設協議会(すべての介護従事者向け。LINE、電話、メールで対応)  
<https://js-cocomen.com/>

○全国老人保健施設協会(老健施設職員向け。電話とメールで対応)  
<https://booking.roken.or.jp/>

○新型コロナ感染症に対応する介護施設等の職員のための相談窓口(厚労省が民間に業務委託。電話、メールで対応)  
[https://www.murc.jp/cam/covid19\\_soudan/](https://www.murc.jp/cam/covid19_soudan/)

○日本介護クラフトユニオン(組合員向け)  
0120・519・931

「自分が施設で感染を広げてしまったら不安」「面会希望を断つたら家族からきつい言葉を受けた」

特別養護老人ホームなど事業者が加盟する全国老人福祉施設協議会(老施協)の相談窓口には、介護従事者からそんな悩みが寄せられる。老施協は昨年10月から新型コロナに関する介護従事者の悩み相談をLINEなどで受け付けるが、緊急事態宣言に入った今年1月から相談が増加傾向にあるという。

LINEの友だち登録は1千人を超える、これまで500件以上の相談を受け付け、保健師やカウンセ

「高齢者施設でのクラスターは3月8日現在、1111件発生し、医療機関(943件)よりも多い。1月4日からの約3週間は225件と急増した。医療機関

院で感染を広げてしまった」との声も寄せられた。ある高齢者施設では利用者と職員31人のうち、29人が感染した例もあった。

コロナが原因とは一概には言い切れないものの、組合員の自殺も例年と比べると倍増しているという。

「2月は緊急事態宣言が延長されて疲労がたまる時期でもあり、相談が増えた。再び宣言が延長され、心のケアがより重要なになっていく」(担当者)という。

東京都のSOMPOケア高井戸デイサービスで働く伊藤道仁さん(32)は「利用者に感染させてはいけないという緊張感は大きい」と話す。検温や送迎車の換気、消毒作業などの感染予防をするが、食事の介助や移動補助といった身体接触への外出を控える。「一緒に働く仲間の存在や、利用者のためという思いで頑張っている」と話す。

介護現場で働く人たちが、精神的な不調を訴える例が増えている。高齢者施設では新型コロナウイルスのクラスター(感染者集団)が多くしておらず、介護従事者は感染すると重症化しやすい高齢者のケアをしながら、自らも感染の不安と同じくらい緊張の日々を強いられている。各団体や政府は相談などの支援の取り組みを急ぐ。

## 新規「口」

ラーが対応しているが、

「2月は緊急事態宣言が延長されて疲労がたまる時期でもあり、相談が増えた。再び宣言が延長され、心のケアがより重要なになっていく」(担当者)という。

日本介護クラフトユニオンの組合員には、感染の不安からうつ病を発症した人や、新型コロナから回復しても心的外傷後ストレス障害(PTSD)になる人も出ているという。

8万5千人いる組合員のうち、420人以上が新型コロナに感染したといい、「施設内で感染を広げてしまった」との声も寄せられた。ある高齢者施設では利用者と職員31人のうち、29人が感染した例もあった。

コロナが原因とは一概には言い切れないものの、組合員の自殺も例年と比べると倍増しているという。

## うつやPTSDも 団体や国が相談窓口を開設

同ユニオンが昨年11月に実施した組合員への新型コロナに関するアンケートでは、約3割が精神的な悩みを抱えていた。ただ、相談が来る件数は少ないといい、1月に新型コロナに関する相談窓口を設置した。

染川朗会長は、「介護職の人は『これぐらいない』と我慢してしまう傾向が強い」と指摘し、「医療機関ほど光も当たらないが、精神的な負担は日増しに高まっている。対策しても感染リスクをゼロにはできない

なかで、感染者や仲間、自分を責めない環境をつくる必要はない」と話す。厚生労働省は介護職員の体制整備を補助金で支援するためなどとして、2020年度の補正予算に約2億3千万円を計上。1月に民間に業務委託してメンタルヘルス相談窓口を開設し、改善の取り組み事例などを盛り込んだガイドブックの配布も予定する。

# 集団感染への不安 続く緊張